

シラバス (授業概要)				年度	
				2022 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				D-K01	
授業科目名			授業形態		学科・コース
WINDOWS 演習			演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必須	30	1	石黒いずみ
授業の目的・到達目標					
現場報告書等に利用されるワープロ・表計算ソフトの操作、使用方法について学習し、通信文や表を作成することができる。					
授業の概要					
ワープロ・表計算はもとより、メール交換やweb検索などネット社会で必要とされるパソコン全般に対する知識を深める。OS基本操作から始め、画像を含む簡単な文書作成を行う。					
成績評価の方法					
課題提出状況と学習態度等で評価する。					課題 80%
					学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
30時間でマスター Office 2019 (実教出版) ワープロ検定・表計算検定問題集 (日本情報処理検定協会)					
授業内容・授業計画					
1. Microsoft Word		時間数	2. Microsoft Excel		時間数
①基本入力練習 自己紹介の作成		2	①基本表作成 式の入力・再計算・表作成		1
②ビジネス文書の作成		2	②課題問題 1		1
③表作成		2	③基本関数 (SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA)		2
④ワードアートの活用		1	④課題問題 2		1
⑤Word を使った作品		1	⑤グラフの活用		1
⑥検定対策・検定実施		6	⑥課題問題 3		2
			⑦その他の基本関数 (IF・VLOOKUP・SUMIF・COUNTIF など)		2
			⑧課題問題 4		2
			⑨検定対策・検定実施		4
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K02
授業科目名			授業形態		学科・コース
キャリアプランニング I			演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必須	30	1	長崎 一郎・中居 康晴
授業の目的・到達目標					
社会人としての必要と思われるマナーおよびキャリアデザインの理解を深め、社会人として礼節をもった行動できる。					
授業の概要					
日常の基本的な挨拶から社会人としての必要な企業常識、マナー、ビジネス文書の書き方などの基本について学習する。また、2年次の就職活動に必要な知識などについても学ぶ。					
成績評価の方法					
課題提出状況と学習態度等で評価する。 出席日数・キャリアデザイン自己分析ワークシート記入内容・履歴書記入内容・レポートの結果 や取り組み状況に基づき、成績評価を行う。ワークシートへは詳細に記入することを心掛けてください。					課題 80% 学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
「就活のコツ／静岡新聞社」 授業に関するテキスト以外の資料は、授業の中で適時プリントを配布します					
授業内容・授業計画					
1 就職環境の理解	時間数				時間数
2 キャリアデザイン／①天職探索②10年後のありたい自分	2		9履歴書 / ⑬履歴書ワーク※「学校指定」履歴書		2
3 業種・職種の理解／③学生生活 ④成功体験 ⑤失敗体験 第3週	2		10 エントリーシート / ⑭エントリーシートワーク ⑮自己PRワーク		2
4 キャリアビジョンを考える			11 添え状		2
5 自己分析の重要性／⑥自己ワーク⑦他己ワーク	2		12 電話トレーニング／⑰添え状・お礼状ワーク		
6 企業研究			13 面接の受け方 ビジネスマナー／⑱		2
7 情報収集／⑧仕事探索⑨未来予想ワーク ⑩未来スケジュール	2		面接質問ワーク I		
8 職場訪問・インターンシップ／⑪就職条件 ⑫インターンシップワーク	2		14 ビジネスマナー／⑲面接質問ワーク II		2
			キャリアデザイン論総括 就活実践 I レポート提出 就活実践 II		8
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K03
授業科目名			授業形態		学科・コース
キャリアプランニングⅡ			演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必須	30	1	中居 康晴
授業の目的・到達目標					
就職活動を意識して、面接時の応対や自己表現、一般常識の習得、論文等の学習を行う。社会人として必要な考え方や行動、そして協調性を持った行動ができる。					
授業の概要					
1年次の学習に引き続き、建築技術者として必要な資質を高めることを目的として、一般常識、礼儀作法、ビジネス文書等の技能を身につける。さらに、就職活動における自己アピールの訓練や服装などについて考えていく。					
成績評価の方法					
課題演習、授業態度等により評価する。					課題 80% 学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		
①SPI演習および模擬テスト			4		
②適性検査模擬試験と評価			4		
③小論文演習と模擬試験・評価			4		
④模擬面接			4		
⑤就活ゼミ			14		
その他			関連科目		
			キャリアプランニングⅠ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K04
授業科目名			授業形態		学科・コース
コミュニケーション活動I			実技・演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必須	60	2	中居 康晴
授業の目的・到達目標					
個人的生活、社会的な団体生活での考え方、協調性を養う。入学式・始業式・終業式・ハイキング・スポーツフェスティバル・現場見学会など課外でのイベント活動を行い、教員・学生間の信頼を育む。					
授業の概要					
レクリエーション、講演会、展示会見学など課外活動を行う。健全な心身の育成と人格の形成を目的とし、学生相互、および教員とのコミュニケーションを深めるとともに、建築技術者としての資質を養う。					
成績評価の方法					
参加・行動・協調性を評価する。				課題	20%
				学習意欲	80%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 入学式			4		
2. ボウリング大会			4		
3. ハイキング			8		
4. 現場見学会			16		
5. 始業式			4		
6. 終業式			4		
7. 防災訓練			2		
8. スポーツフェスティバル			8		
9. その他			10		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K05
授業科目名			授業形態		学科・コース
コミュニケーション活動Ⅱ			実技・演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	90	3	中居 康晴
授業の目的・到達目標					
個人的生活、社会的な団体生活での考え方、協調性を養う。入学式・始業式・終業式・ハイキング・スポーツフェスティバル・現場見学会など課外でのイベント活動を行い、教員・学生間の信頼を育む。					
授業の概要					
レクリエーション、講演会、展示会見学など課外活動を行う。健全な心身の育成と人格の形成を目的とし、学生相互、および教員とのコミュニケーションを深めるとともに、建築技術者としての資質を養う。					
成績評価の方法					
参加・行動・協調性を評価する。					課題 20% 学習意欲 80%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 入学式			4		
2. ボウリング大会			4		
3. ハイキング			8		
4. 現場見学会			16		
5. 始業式			4		
6. 終業式			4		
7. 防災訓練			2		
8. スポーツフェスティバル			8		
9. その他			10		
その他				関連科目	

シラバス (授業概要)				年度	2022年度
時間数は45分換算				科目コード	D-K06
授業科目名		授業形態		学科・コース	
建築計画Ⅰ		講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	4	松永 務
授業の目的・到達目標					
人間の動作寸法を把握した上で、各部屋の基本寸法について学習する。また用途に応じた建築手法を学ぶことで自由設計課題において整合性のとれた図面を描けるようになる。					
授業の概要					
住宅、事務所および公共施設の用途に供する建築の特徴を知り、その空間構成や平面計画について学習する。また居住性について文化的側面や人体モジュールから創作できるよう基礎能力を養う。					
成績評価の方法					
前期及び後期の試験結果と課題演習、授業態度等により評価する。				期末試験	80%
				課題	10%
				学習意欲	10%
使用テキスト・教材					
建築計画 (実教出版) 建築士 (市ヶ谷出版社)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
・第1回～5回 第6章建築の移り変わり			5		
・第6回～8回 近代建築家の作品紹介			3		
・第9回～15回 第1章建築と環境			7		
・第16回～18回 第2章住宅の計画			3		
・第19回～20回 住まいの設計プロセス実例			2		
・第21回～23回 第5章建築設備の計画			3		
・第24回～29回 第3章各種建築物の計画			6		
・第30回 第4章都市と地域の計画			1		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			建築計画Ⅱ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K07
授業科目名		授業形態		学科・コース	
建築デザイン史		講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	4	小林 良行
<b>授業の目的・到達目標</b> □日本及び海外の建築に関連するデザインの歴史について、古典様式から現代の主流までを時代順に考察する。特に建築様式については重点的に学習し、建築設計に生かすことができる。					
日本及び海外の建築に関連するデザインの歴史について、古典様式から現代の主流までを時代順に考察する。特に建築様式については重点的に学習し、建築設計に生かすことができる。					
<b>授業の概要</b>					
日本と西洋における建築の歴史を学ぶとともに、造形デザインの概要的な歴史についても学習する。モノの本質を理解し、各時代・各地域の特性や様式についての知識を習得することで、建築空間におけるデザインの基礎力を養う。					
<b>成績評価の方法</b>					
試験結果および授業態度等を勘案して総合評価する。				期末試験	80%
				課題	10%
				学習意欲	10%
<b>使用テキスト・教材</b>					
建築史 (市ヶ谷出版社)					
<b>授業内容・授業計画</b>					
		時間数			時間数
1. 日本建築史：古代、中世、近世		12			
中間試験		2			
2. 西洋建築史：古代、中世、近世		14			
中間試験		2			
3. 近代建築史：西洋、日本の産業革命以降		20			
4. 現代建築史：戦後の日本建築		8			
中間試験		2			
<b>その他</b>			<b>関連科目</b>		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K08
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築設備			講義・演習		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	60	4	坪井 賢一	
授業の目的・到達目標						
建築計画の学習を基礎に建築設備計画の方法について習得する。特に環境に影響を及ぼす空調設備や給排水衛生設備について理解し、建築設計に生かすことができる。						
授業の概要						
人が健康的かつ快適に生活するために必要である建築設備について学習する。さらに、住環境創造の一手段としての設備計画がどのように建築とかわりあうかを考える。この科目では特に建築計画と設備設置の方法、空気調和設備、給排水設備、消防設備について学習する。						
成績評価の方法						
期末試験の結果と学習意欲(宿題提出状況)による総合評価とする。					期末試験	80%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
「2級建築士学科新体系テキスト 計画」(TAC出版)						
授業内容・授業計画						
1. 建築設備に関する工学知識と環境の概要	時間数					時間数
1-1 室内環境	4					
1-2 換気	4					
1-3 伝熱・結露	4					
1-4 日照・日射・採光	4					
1-5 色彩・音響	4					
1-6 気象・気候・地球環境	4					
1-7 省エネルギー手法と基準	4					
2. 建築設備の基礎知識と概要						
2-1 空気調和設備	4					
2-2 給排水衛生設備	4					
2-3 照明設備	4					
2-4 電気・輸送設備	4					
2-5 防災・消防設備	4					
3. 試験(前後期試験・試験対策・試験解説含む)	12					
その他				関連科目		



シラバス (授業概要)				年度	
時間数は45分換算				2022年度	
				科目コード	
				D-K09	
授業科目名			授業形態		学科・コース
構造力学 I			講義		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	4	佐藤 行彦
授業の目的・到達目標					
建築構造の部材に働く力と流れを理解する。構造物における力の釣り合いを感覚的に理解できるようになるまで繰り返し演習を行い、建築士試験の構造分野の試験問題が解けるようになる。					
授業の概要					
梁や柱、またラーメン構造に働く外力やそれによって生ずる応力求めることで、構造物に働く力について理解し、安全性について検討できる基礎的能力を養う。また、力学の応用としてトラス構造の解法についても学ぶ。					
成績評価の方法					
前期及び後期の試験結果と授業態度等により評価する。					期末試験 80% 課題 10% 学習意欲 10%
使用テキスト・教材					
図説 やさしい構造力学 (学芸出版) 基本式の理解と活用 建築構造設計 (実教出版)					
授業内容・授業計画					
概要		時間数	静定構造物の反力と応力		時間数
1. 建築構造の役割		1	9. 片持ち梁		7
2. 構造設計と構造力学		1	10. 静定梁		6
3. 構造物のモデル化		1	11. 片持ち梁系ラーメン		8
4. 構造物の分類		1	12. 単純梁系ラーメン		7
力のつり合い			13. 門型ラーメン		6
5. 力の合成と分解		4	静定トラス		
6. 力のモーメント		4	14. 接点法・切断法		6
7. 力のつり合い		4			
8. 力のつり合い条件式		4			
その他			関連科目		
			構造力学Ⅱ		

シラバス (授業概要)				年度		
時間数は45分換算				2022年度		
				科目コード		
				D-K10		
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築構造 I			講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	60	4	望月 恒男	
授業の目的・到達目標						
人間の生活を営む器として建築をとらえ、この建築要素と構築方法を学習する。特に木造建築について重点的に学習し、木造住宅建築図面を理解できるようにする。						
授業の概要						
主として、木造建築物の主要部材とその仕組みについて学習する。さらに、防火、耐風、耐震などの災害への安全性に配慮できる基礎的能力を養う。また、構造計画上必要とされる関係法令についても学習する。						
成績評価の方法						
前期及び後期の試験結果と授業態度等により評価する。					期末試験 70% 課題 20% 学習意欲 10%	
使用テキスト・教材						
新版 木造住宅構法 (市ヶ谷出版社)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 木造建築の概要			6	7. 外部仕上げ・内部仕上げ		6
2. 基礎・地業			4	8. 住宅の設備と断熱・防音		4
3. 木材とその接合			4	バリアフリー		
4. 軸組・小屋組・床組・階段			6	9. 木造住宅の生産		4
5. 構造計算の一般知識			4	10. 住宅の耐震・耐風の考え方と実習		10
6. 前期まとめ試験			6	11. 後期まとめ試験		6
その他				関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。				建築構造 II		

シラバス (授業概要)				年度	
				2022年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				D-K11	
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築構造Ⅱ			講義		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	4	佐藤 行彦
授業の目的・到達目標					
<p>地盤、基礎から始まり、鉄筋コンクリート造、鉄骨造に関して、建築の仕事に携わる者として必要な建築的な常識を理解できるようにする。かつ現代社会で注目されている事項や問題を解かりやすく解説していき、社会に出た時、一般ユーザーからの質問に対して、建築を学んだ者としての的確に答えることができるようにしていく。</p>					
授業の概要					
<p>教科書、2級建築士の過去問題を中心に授業を進めていき、2級建築士試験に備えた学習をしていく。また、現在社会で起こっている建築的な話題や問題を織り交ぜながら、建築知識の幅を広げていく。同時に構造から生まれてくる建築デザインについても考えていく。</p>					
成績評価の方法					
試験結果および授業態度等を勘案して総合評価する。				期末試験	80%
				課題	10%
				学習意欲	10%
使用テキスト・教材					
「2級建築士学科 新体系テキスト 構造」(TAC 出版)					
授業内容・授業計画					
鉄筋コンクリート構造		時間数	地盤と基礎構造		時間数
1. 鉄筋コンクリートの性質		3	11. 地盤の許容応力度		5
2. セメント・コンクリート		6	12. 基礎構造		5
3. 部材算定		10			
4. コンクリートのひび割れ		4			
5. 壁式構造関係		2			
6. プレストレストコンクリート		2			
鉄骨構造					
7. 鋼材の性質		3			
8. 金属材料		4			
9. 部材の設計		6			
10. 接合方法		10			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			建築構造Ⅰ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K12
授業科目名			授業形態		学科・コース
材料実験			実験・実習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	中居 康晴
授業の目的・到達目標					
建築の主要材料である木、鉄、コンクリートの材料特性を学習する。特にコンクリートに関しては品質管理から施工方法、調合強度について理解し実践できる。					
授業の概要					
建築物を構成する主要材料の特性について実験を通して理解する。また、建築部材の性質を知ることによって建築構法を選択し評価・判断する能力を養う。また、総合的に構造物の強さを予測し、快適で安全性の高い建築物を設計・施工する能力を養う。					
成績評価の方法					
実験実習、レポート、授業態度等により評価する。					課題 80% 学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
建築実習1 (実教出版)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. コンクリートとは何か			2		
2. 材料実験のレポートの書き方と注意			2		
3. 骨材ふるい分け試験			4		
4. 細骨材の比重および吸水率試験			4		
5. スランプ試験			4		
6. コンクリートの圧縮試験 (供試体の作成)			4		
7. コンクリートの圧縮試験 (破壊試験)			4		
8. フレッシュコンクリートの空気量測定			4		
9. まとめ			2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)			時間数は45分換算		年度	2022年度
					科目コード	D-K13
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築施工 I			講義・演習		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	60	4	伊藤 功	
授業の目的・到達目標						
建築施工の品質・安全・経済性・工法について、実際の工事例から工事種別ごとに学習する。日々進歩する施工技術の根拠をふまえて学習し、現場において実践できる。						
授業の概要						
建築は経済的にかつ安全に施工されなければならない。それは様々な条件や状況から適切な判断によって行われている。このことは実務経験が非常に重要であることを示しているわけであるが、建築施工は理論にもとづいて行われなければならない均一で安定した生産活動は難しい。ここでは建築工事標準仕様書に照らし、学習を進める。						
成績評価の方法						
試験結果および授業態度を勘案して総合評価する。					期末試験	60%
					課題	40%
					学習意欲	10%
使用テキスト・教材						
2級建築士学科新体系テキスト 施工 (TAC 株式会社)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1-1:施工計画 1-2:工程計画			4	6-1:鉄筋材料 6-2:鉄筋の加工組立て	4	
2-1 節:工事監理業務 2-2:工事管理業務			2	6-3:鉄筋の定着・継手 6-4:配筋	4	
2-3:建築工事に伴う渉外諸手続き			4	7-1:型枠材料 7-2:型枠の設計	2	
2-4:環境・資源			4	7-3:型枠の加工・組立	2	
3-1:地盤調査 3-2:測量			2	7-4:型枠の存知期間	4	
4-1:仮設物など 4-2:足場			4	8-1:コンクリートの材料と調合	4	
4-3:災害防止対策			4	8-2:製造受入運搬打設養生	2	
5-1:土工事 5-2:節:山留め工事			2	8-3:コンクリートの品質管理・検査	2	
5-3:節:基礎・地業工事			2	9-1:鉄骨の工場作業	4	
				9-2:鉄骨の現場作業	4	
その他				関連科目		
				建築施工 II		

シラバス (授業概要) 時間数は45分換算					年度	2022年度
					科目コード	D-K14
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築法規Ⅰ			講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必須	60	4	中居 康晴	
<b>授業の目的・到達目標</b>						
<p>建築関連法令集を用いて、法の解釈と実施、実例について詳しく学習する。規則の意義を理解した上で法を遵守し、確認申請等の書類を作成できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>建築物は社会的公共性が高く、そこに暮らす人々や近隣環境に大きな影響を与える。そのため公共の利益を守る手段として建築には法的規制がある。そこで、建築設計において検討しなければならない法的ルールについて規制の根拠とその内容について学習する。ここでは用語の定義から始まり、単体規定を中心に学ぶ。</p>						
<b>成績評価の方法</b>						
前期及び後期の試験結果と課題演習、授業態度等により評価する。					期末試験	80%
					課題	10%
					学習意欲	10%
<b>使用テキスト・教材</b>						
<p>図説 やさしい建築法規 (学芸出版社)          建築基準法関係法令集 (建築資料研究社)</p>						
<b>授業内容・授業計画</b>						
			時間数			時間数
1. 用語の定義			6			
2. 面積・高さ等の算定			6			
3. 確認申請・建築手続			6			
4. 階段			6			
5. 採光			6			
6. 敷地と道路			6			
7. 用途地域			6			
8. 建ぺい率・容積率			6			
9. 耐火・準耐火・防火建築物			6			
10. 防火地域・準防火地域			6			
<b>その他</b>				<b>関連科目</b>		
				建築法規Ⅱ		

シラバス (授業概要)				年度	
				2022年度	
				科目コード	
				D-K15	
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築法規Ⅱ			講義		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必須	60	4	望月 恒男
授業の目的・到達目標					
建築関連法令集を用いて、法の解釈と実施、実例について詳しく学習する。規則の意義を理解した上で建築設計が行える。また、建築士試験試験において試験問題が解けるようになる。					
授業の概要					
建築物は社会的公共性が高く、そこに暮らす人々や近隣環境に大きな影響を与える。そのため公共の利益を守る手段として建築には法的規制がある。そこで、建築設計において検討しなければならない法的ルールについて規制の根拠とその内容について学習する。ここでは用語の定義から始まり、単体規定を中心に学ぶ。					
成績評価の方法					
前期及び後期の試験結果と授業態度等により評価する。					期末試験 80% 学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
図説 やさしい建築法規 (学芸出版社) 建築基準法関係法令集 (建築資料研究社)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 防火制限 (耐火・準耐火建築)		8	7. 建築基準法のその他の規定 (建築協定)		2
2. 防火区画・内装制限		8	8. 建築士法		4
3. 避難経路		4	9. 都市計画法 建設業法		4
4. 非常時の避難施設		4	10. 品確法・耐震促進法		4
5. 前期まとめ試験		6	バリアフリー法		
6. 構造強度		8	11. 消防法 その他の法律		2
			12. 後期まとめ試験		6
その他			関連科目		
			建築法規Ⅰ		

シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K16
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築製図Ⅰ			講義・演習		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	180	12	中居 康晴	
授業の目的・到達目標						
製図の規約・通則を知り、正しく精度の高い建築製図を作図する。木造住宅をはじめ鉄筋コンクリート造の建築を創作し、図面を完成することができる。						
授業の概要						
図面における線の引き方や図・記号等建築の製図規則を知り、住宅や店舗などの各種用途に供する建築製図及びこれらに関する設計仕様書の作成についても学ぶ。製図実技のトレーニングを行うことで建築技術者としての資質を養い、また建築士資格試験に向けての基礎力を養う。						
成績評価の方法						
課題演習と授業態度等により評価する。					課題	80%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
超入門 建築製図 (市ヶ谷出版社) 住まいの建築設計製図 (学芸出版社)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 線の練習			4			
2. 木造2階建専用住宅 配置図・平面図			20			
3. 木造2階建専用住宅 断面図・立面図			20			
4. 木造2階建専用住宅 矩計図			16			
5. 住宅自由設計 エスキス			30			
6. 住宅自由設計 1/100 CAD図			40			
7. RC事務所建築 配置図・平面図			20			
8. RC事務所建築 断面図・立面図			20			
9. RC事務所建築 矩計図			10			
その他				関連科目		
				建築製図Ⅱ		



シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K17
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築製図Ⅱ			講義・演習		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	90	6	佐藤 行彦・大場 房夫	
授業の目的・到達目標						
公共建築を題材に、その設計や意匠を考察しながら設計計画を行う。さらに、独自の建築を創造し設計図面を完成させることで、設計業務において建築図面を描くことができる。						
授業の概要						
公共建築などの大規模建築の設計について学習する。意匠・計画・構造・法規等の条件をクリアし、整合性のある建築を創造する。与えられるテーマや条件により試行錯誤を繰り返し、最適な建築空間を作り上げていくことで、実務に則した技術を修得していく。						
成績評価の方法						
課題演習および授業態度等を勘案して総合評価する。					課題	80%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
建築設計資料 (自作)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 演習課題の計画・設計の進め方			4			
2. トレース課題			8			
3. 演習課題のエスキース 決定案のCAD図面			28			
4. 設計概要・配置図・各階平面図・断面図			22			
5. 立面図・CGパース			22			
6. プレゼンテーションと課題の評価			6			
その他				関連科目		
				建築製図Ⅰ		

シラバス (授業概要)				年度	
				2022年度	
				科目コード	
				D-K18	
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築CAD I			講義・演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必須	120	12	望月 翔平
<b>授業の目的・到達目標</b>					
建築設計製図の手順に沿って、建築構造や建築計画の知識を基本にCADによる作図を行う。また、CAD設計により建築知識の確認と充実をはかるとともに建築CAD検定試験3級の課題を作図できるようになる。					
<b>授業の概要</b>					
建築製図の規則を理解したうえで、CADを使って実践的な作図を行う。操作方法を覚えてうえで、より早く、より正確に作図できるような技術習得を目標とする。建築CAD検定3級の合格を目指す。					
<b>成績評価の方法</b>					
検定試験結果、課題演習、授業態度等により評価する。				本試験	50%
				課題	40%
				学習意欲	10%
<b>使用テキスト・教材</b>					
建築CAD 検定試験 公式ガイドブック (エクスナレッジ) 3級過去問題 (プリント)					
<b>授業内容・授業計画</b>					
			時間数		
1. CAD 概要、基本操作説明			10		
2. 図面トレース 階段			18		
3. 図面トレース 柱・壁・間仕切壁			18		
4. 寸法、文字			4		
5. 配置図・平面図・屋根伏図			20		
6. 立面図・断面図			20		
7. 検定試験対策			30		
<b>その他</b>			<b>関連科目</b>		
			建築CAD II		

シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K19
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築CADⅡ			講義・演習		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必須	90	6	中居 康晴	
授業の目的・到達目標						
CAD設計実務で通用する高い技術力の習得が目標であるため、迅速かつ正確な作図が要求される。ひとつひとつの演習課題について達成目標を持ち、クリアしていくことでCAD図面を描けるようになる。						
授業の概要						
建築CADⅠに引き続き、建築CAD技術の習得を目標とする。作図に必要な基本的な操作方法を理解した上で、様々な応用テクニックについても習得する。建築CAD検定2級の合格を目指す。						
成績評価の方法						
検定試験結果、課題演習、授業態度等により評価する。					課題	80%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
建築CAD検定試験公式ガイドブック (エクスナレッジ)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 建築CAD検定試験2級課題について			2			
2. 平面図の描き方			2			
3. 平面図基礎課題演習			8			
4. 立面図の描き方 (寄棟屋根)			2			
5. 立面図基礎課題演習 (寄棟屋根)			6			
6. (例題1) 半入母屋屋根の課題			10			
7. (例題2) 半切妻屋根の課題			10			
8. (例題3) ドーマー付き切妻屋根			10			
9. 過去問演習			40			
その他				関連科目		
				建築CADⅠ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K20
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築プレゼンテーション I			演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	2	望月 翔平
授業の目的・到達目標					
1. 3次元 CAD で自分の意図した表現を正確に作り上げられるようになる。 2. 用紙の中で各要素の配置を考え、伝わりやすい資料の作り方を工夫する。					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>参考建物のモデリングによって三次元 CAD の基本操作を習得する。</li> <li>各自の設計した住宅を三次元 CAD でモデリングし、パースを作成する。</li> <li>作成したパースや他の図面を二次元 CAD で配置し、プレゼンテーションボードを作成する。</li> </ul>					
成績評価の方法					
演習課題および学習意欲を総合評価して決定する。 演習課題については、正確なモデリングと必要な表現がされた成果物を期限までに提出することが必要。未提出の場合は評価できない。					提出課題 80% 学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
ソフトの基本操作テキスト					
授業内容・授業計画					
1. テキストに沿って住宅のモデリング 2. 自由設計住宅の BIM モデル作成 2-1. 住宅の BIM モデリング 2-2. 外観及び内観パースレンダリング 3. プレゼンテーションボードの作成 3-1. 図面の作成 3-2. 各図の貼付、大きさの調整、配置			時間数 10 30 20	時間数	
その他			関連科目		
			建築プレゼンテーション II		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K21
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築プレゼンテーションII			演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必須	90	2	中居 康晴
授業の目的・到達目標					
3次元設計ソフトを使いこなし、2次元CADとの連携によってプレゼンテーションボードを作成する。WINDOWSを使いこなし、デザインとレイアウト力を身に付けることでプレゼンテーションボードを作成できるようになる。					
授業の概要					
3次元設計ソフトの操作方法を習得し、それを利用したプレゼンテーション技法について学習する。見た目に美しく、そしてわかりやすい表現方法を身に付けることができる。					
成績評価の方法					
課題演習、授業態度等により評価する。					課題 80% 学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
自作プリント					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 3次元CGソフト (Sketchup) の基本			4		
2. ファンズ・ワース邸を作成する。			4		
3. 9坪住宅を作成する			4		
4. 住宅自由設計の外観パース作成			24		
5. 住宅自由設計の内観パース作成			24		
6. 地図の取り込み			4		
7. 図面レイアウトと配置			22		
8. まとめ			4		
その他			関連科目		
			建築プレゼンテーション I		

シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K22
授業科目名			授業形態		学科・コース	
模型製作			演習		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	90	3	大畑 理恵	
授業の目的・到達目標						
<p>模型製作は、建築実務演習の到達点としての位置付けにあり、建築の様々な知識を集約して成立する。ものづくりの楽しさを体感しながら、その造形美について理解を深め、住宅模型が作成できるようになる。</p>						
授業の概要						
<p>木造軸組工法の2階建住宅の模型製作を通し、部材名称と役割、作業手順について学習する。後期は自由設計した木造住宅の模型製作を行い、建築を3次元でとらえる習慣付けと、形態の重要性について学習する。</p>						
成績評価の方法						
<p>期末試験の結果と演習課題の提出、また学習意欲(宿題提出状況)による総合評価とする。</p>					期末試験	40%
					課題	40%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
「見てすぐ作れる建築模型の本」(彰国社)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 軸測投影法(アイソメトリック)の基礎			4			
2. 軸測投影法(アイソメトリック)の演習			12			
3. 模型製作の基礎			10			
4. 木造住宅の平面、配置、立面計画			8			
5. 演習課題による模型製作			20			
6. 試験(前期試験・試験対策・試験解説含む)			6			
7. 自由設計による住宅模型の製作			30			
その他				関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。						

シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K23
授業科目名			授業形態		学科・コース	
特別講義 I			講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	60	4	中居 康晴	
授業の目的・到達目標						
建築業界で活躍している先輩から生きた情報と知識を正確にキャッチし、今後の知識習得に活かす。現場見学会などを通じて、座学で学んだ知識を深め現場で生かせる人材になる。						
授業の概要						
建築業に携わる方を招いて実例等を交えた講義を行う。また、各種検定試験の対策授業を行う。						
成績評価の方法						
提出課題、授業態度等により評価する。					課題	80%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
演習課題 (自作)						
授業内容・授業計画						
建設業について			時間数	5. 各種検定対策		時間数
1. 業界・業種の理解			10	色彩検定対策など		20
OB・OGセミナー			10			
2. 卒業生による業務内容の講演						
3. 建設業のキャリアパスについて						
現場見学会			20			
4. 建設現場での施工理解						
その他				関連科目		

シラバス (授業概要) <span style="float: right;">時間数は45分換算</span>					年度	2022年度
					科目コード	D-K24
授業科目名			授業形態		学科・コース	
特別講義II			講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	60	4	中居 康晴	
<b>授業の目的・到達目標</b>						
建築業界で活躍している生きた情報と知識を正確にキャッチし、実務に役立てる。 現場見学会などを通じて、座学で学んだ知識を深め現場で生かせる人材になる。						
<b>授業の概要</b>						
建築業に携わる方を招いて実例等を交えた講義を行う。また、各種検定試験の対策授業を行う。						
<b>成績評価の方法</b>						
提出課題、授業態度等により評価する。					課題	80%
					学習意欲	20%
<b>使用テキスト・教材</b>						
演習課題 (自作)						
<b>授業内容・授業計画</b>						
			時間数			時間数
現場見学会			20			
1. 建設現場での施工理解						
各種検定対策			40			
2. 2級建築施工管理技術検定対策						
3. 建築CAD検定試験対策						
<b>その他</b>				<b>関連科目</b>		



シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K25
授業科目名			授業形態		学科・コース	
卒業制作			演習		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2.	通年	必修	180	6	伊藤 功・佐藤 行彦 中居 康晴	
授業の目的・到達目標						
プレゼンテーションを含めた建築設計を総合的に行う。模型やCAD/CGパース等、2年間で学習した内容を作品に反映させ、総合設計能力の充実させることで建設業の即戦力とする。						
授業の概要						
個人またはグループごとに決定したテーマに沿って、2年間の学習のまとめとして作品を完成させる。その建築作品は卒業制作としてまとめられ、総仕上げとしての発表を行う。また、作品展示会を実施するなど学習成果として最終的に評価される。						
成績評価の方法						
課題演習、授業態度等により評価する。					課題	80%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
建築設計資料 (建築資料研究社)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. テーマ決め			172			
2. エスキス・平面計画の決定						
3. 立面図・断面図の作成						
4. 外観パース作成						
5. 内観パース作成						
6. プレゼンボード作成						
7. 発表原稿作成			↓			
8. 卒業制作発表会			8			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
時間数は45分換算				2022年度	
				科目コード	
				D-K26	
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築計画Ⅱ			講義・実習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択A 選択者必修	60	4	大場 房夫
授業の目的・到達目標					
建築計画Ⅰの基本的知識をもとに、各用途に応じた計画手法について理解する。また、気候条件や色彩、音響などの計画原論を十分に理解したうえで、建築設計に反映できるようになる。					
授業の概要					
集合住宅や事務所ビル、ホテルなどの商業施設、図書館などの公共施設など、それぞれの用途の特性を理解し、その目的にあった計画手法を習得する。					
成績評価の方法					
演習課題の評価点および学習意欲を総合評価し決定する。					課題 80%
					学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
超図解で全部わかるインテリアデザイン入門 (エクスナレッジ)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 専用住宅、マンション等の設計			2		
2. 基本計画、エスキース手順等の確認			20		
3. 建築基準法のチェックポイント			4		
4. 構造耐力上の注意点			6		
5. エネ計画 (外皮、開口率計算)			6		
6. 設備計画 (ショールーム見学含む)			8		
7. インテリアデザイン 照明計画			14		
その他			関連科目		
			建築計画Ⅰ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K27
授業科目名			授業形態	学科・コース	
環境工学			講義・実習	建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択A 選択者必修	30	2	中居 康晴
<b>授業の目的・到達目標</b>					
居住空間の快適性能に室内気候の諸条件を対応させ、各々の数値で判定・制御する。採光、換気、防音、断熱等について理解し、建築士試験において環境分野の問題が解けるようになる。					
<b>授業の概要</b>					
採光、換気、断熱、防音、音響など人間の心身に影響を及ぼす室内環境の快適性について学習する。自然科学の理論を用い、個々の建築環境を検討・評価できる能力を養う。					
<b>成績評価の方法</b>					
課題演習、授業態度等により評価する。				課題	80%
				学習意欲	20%
<b>使用テキスト・教材</b>					
建築実習1 (実教出版)					
<b>授業内容・授業計画</b>					
			時間数	時間数	
1. 建築環境について			2		
2. 照度分布の測定			5		
3. 昼光率の測定			5		
4. 騒音測定			5		
5. 明瞭度試験			5		
6. 有効温度の測定			5		
7. まとめ			3		
<b>その他</b>			<b>関連科目</b>		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K28
授業科目名			授業形態		学科・コース
構造力学Ⅱ			講義		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択A 選択者必修	60	4	中居 康晴
授業の目的・到達目標					
構造力学について十分に理解し、安全な建物の設計に役立てることが大切である。目に見えない力を図式化することで視覚的に力を捉え、建築士試験の構造分野の問題が解ける。					
授業の概要					
構造力学Ⅰに引き続き、静定構造物の応力算定について理解を深める。その後、建築部材の断面特性について学習し、構造物に作用する力の種類と、その力に抵抗する断面算定について学ぶ。また、建築構造設計において検討すべき許容応力度設計についても演習を通して学習する。					
成績評価の方法					
前期及び後期の試験結果と課題演習、授業態度等により評価する。					期末試験 70% 課題 20% 学習意欲 10%
使用テキスト・教材					
図説 やさしい構造力学 (学芸出版社) 基礎から学ぶ建築構造設計 (実教出版)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 反力計算・応力図の復習			20		
2. トラス			4		
3. 断面1次モーメント			4		
4. 断面2次モーメント・断面係数			4		
5. 許容応力度			4		
6. 座屈			4		
7. たわみ			10		
8. 静定構造物の崩壊と全塑性モーメント			5		
9. 不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力			5		
その他				関連科目	
				構造力学Ⅰ	

シラバス (授業概要)				時間数は45分換算		年度	2022年度
						科目コード	D-K29
授業科目名			授業形態		学科・コース		
建築材料学			講義		建築科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	選択A 選択者必修	60	4	小林 良行		
授業の目的・到達目標							
建築物には様々な材料が使用されており、そのひとつひとつに長所や短所がある。その特性を理解し、建築物に適切に使用できるようにする。							
授業の概要							
金属、石、ガラスなどの各種建築材料の種類と特徴を理解することで、適材適所な利用方法を習得する。またそれらの施工方法についても学習する							
成績評価の方法							
試験結果と課題演習および授業態度等を勘案して総合評価する。					期末試験	40%	
					課題	40%	
					学習意欲	20%	
使用テキスト・教材							
素材・建材ハンドブック (建築資料研究社)							
授業内容・授業計画							
			時間数				時間数
1. 木材、石材、タイル、土、塗り床・壁、金属、下地材、断熱材、壁紙、天然素材、造作材、建具、			28				
2. 試験			2				
3. 内部・外部仕上げ表作成			15				
4. 特記仕様書作成			15				
その他				関連科目			

シラバス (授業概要)				年度	
				2022年度	
				科目コード	
				D-K30	
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築施工Ⅱ			講義・演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択A 選択者必修	60	4	伊藤 功
授業の目的・到達目標					
建築躯体工事から各種仕上げ工事について、その種別と工法、関連規則を把握する。また品質管理や安全管理も現場管理には重要な項目であり、建築士試験の問題が解けるようになる。					
授業の概要					
建築施工Ⅰに引き続き、建築工事種別ごとに学習を進める。ここではさらに各工事の管理法について学ぶ。建築生産、施工計画、工程管理、原価管理、安全衛生管理など現場管理者として重要である知識を習得する。					
成績評価の方法					
試験結果および授業態度を勘案して総合評価する。				期末試験	50%
				課題	40%
				学習意欲	10%
使用テキスト・教材					
「2級建築士学科新体系テキスト施工2-施」(TAC株式会社)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 鉄筋工事			6		
2. 型枠工事			5		
3. コンクリート工事			10		
4. 鉄骨工事			9		
2級建築施工管理技士試験対策					
5. 建築学			6		
6. 共通分野			6		
7. 建築関連法規			6		
8. 施工管理法			6		
9. 建築施工			6		
その他				関連科目	
				建築施工Ⅰ	

シラバス (授業概要)				年度	
				2022年度	
				科目コード	
				D-K31	
授業科目名			授業形態		学科・コース
環境工学			講義		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択B 選択者必修	30	2	中居 康晴
<b>授業の目的・到達目標</b>					
居住空間の快適性能に室内気候の諸条件を対応させ、各々の数値で判定・制御する。採光、換気、防音、断熱等について理解し、建築士試験において環境分野の問題が解けるようになる。					
<b>授業の概要</b>					
採光、換気、断熱、防音、音響など人間の心身に影響を及ぼす室内環境の快適性について学習する。自然科学の理論を用い、個々の建築環境を検討・評価できる能力を養う。					
<b>成績評価の方法</b>					
課題演習、授業態度等により評価する。					課題 80%
					学習意欲 20%
<b>使用テキスト・教材</b>					
建築実習1 (実教出版)					
<b>授業内容・授業計画</b>					
			時間数		
1. 建築環境について			2		
2. 照度分布の測定			5		
3. 昼光率の測定			5		
4. 騒音測定			5		
5. 明瞭度試験			5		
6. 有効温度の測定			5		
7. まとめ			3		
<b>その他</b>				<b>関連科目</b>	

シラバス (授業概要)					年度	2022年度
時間数は45分換算					科目コード	D-K32
授業科目名			授業形態		学科・コース	
建築材料学			講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	選択B 選択者必修	60	4	小林 良行	
授業の目的・到達目標						
建築物には様々な材料が使用されており、そのひとつひとつに長所や短所がある。その特性を理解するし、建築物に適切に使用できるようにする。						
授業の概要						
金属、石、ガラスなどの各種建築材料の種類と特徴を理解することで、適材適所な利用方法を習得する。またそれらの施工方法についても学習する						
成績評価の方法						
試験結果と課題演習および授業態度等を勘案して総合評価する。					期末試験	40%
					課題	40%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
素材・建材ハンドブック (建築資料研究社)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 木材、石材、タイル、土、塗り床・壁、金属、下地材、断熱材、壁紙、天然素材、造作材、建具、			28			
2. 試験			2			
3. 内部・外部仕上げ表作成			15			
4. 特記仕様書作成			15			
その他				関連科目		



シラバス (授業概要)				年度	
時間数は45分換算				2022年度	
				科目コード	
				D-K33	
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築施工Ⅱ			講義・演習		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択B 選択者必修	60	4	伊藤 功
授業の目的・到達目標					
建築躯体工事から各種仕上げ工事について、その種別と工法、関連規則を把握する。また品質管理や安全管理も現場管理には重要な項目であり、建築士試験の問題が解けるようになる。					
授業の概要					
建築施工Ⅰに引き続き、建築工事種別ごとに学習を進める。ここではさらに各工事の管理法について学ぶ。建築生産、施工計画、工程管理、原価管理、安全衛生管理など現場管理者として重要である知識を習得する。					
成績評価の方法					
試験結果および授業態度を勘案して総合評価する。					期末試験 50% 課題 40% 学習意欲 10%
使用テキスト・教材					
「2級建築士学科新体系テキスト施工2-施」(TAC株式会社) 「2級建築施工管理技士 学科テキスト」(日建学院)					
授業内容・授業計画					
			時間数	(2級施行管理技士試験対策)	時間数
10-1:木材 10-2:各工法			4	2級施行管理技士過去問題演習	12
11:各防水工事と屋根工事			10	2級施工管理技士過去問題解説	12
12:左官・タイル・石工事			4		
13:ガラス工事			2		
14:内装・断熱工事			6		
15:塗装工事			4		
16:外装工事			4		
17:設備工事工			2		
その他				関連科目	
				建築施工Ⅰ	

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K34
授業科目名			授業形態	学科・コース	
施工技術実習			演習	建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択B 選択者必修	60	2	中居 康晴
<b>授業の目的・到達目標</b>					
<p>施工管理者と成るためには、技術・技能だけでなく、安全で効率のよい現場管理能力が要求される。測量実習および現場見学を通して現場管理技術者としての知識を習得し、測量機器の取り扱いができるようになる。</p>					
<b>授業の概要</b>					
<p>建築施工管理に必要な建築工事の概論、施工計画、測量、仮設工事、躯体工事及び安全管理等について基本的な知識の習得と測量実習を通して技能習得をする。</p>					
<b>成績評価の方法</b>					
演習・実習、授業態度等により評価する。				課題	80%
				学習意欲	20%
<b>使用テキスト・教材</b>					
建築実習 (実教出版)					
<b>授業内容・授業計画</b>					
			時間数	時間数	
1. 施工管理の流れと手順			5		
2. 平板測量			15		
3. トランシット測量			20		
4. レベル (水準) 測量			20		
<b>その他</b>			<b>関連科目</b>		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K35
授業科目名			授業形態	学科・コース	
施工管理			講義	建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択B 選択者必修	60	4	伊藤 功・中居 康晴
<b>授業の目的・到達目標</b>					
施工管理試験に出題される建築学、各種工事、施工管理法、関連法規等について、演習問題を実施しながら全体を関連付けて学習していく。2級建築施工管理技術検定試験の問題が解けるようになる。					
<b>授業の概要</b>					
国家資格である2級建築施工管理技術検定試験(学科)合格を目標に、施工管理者として必要な知識を習得する。特に施工管理法について重点的に学習する。					
<b>成績評価の方法</b>					
検定試験結果、本試験、課題演習、授業態度等により評価する。				本試験	80%
				課題	10%
				学習意欲	10%
<b>使用テキスト・教材</b>					
「2級建築施工管理技士 要点テキスト」(市ヶ谷出版社)					
<b>授業内容・授業計画</b>					
建築施工施工管理技術検定			時間数	時間数	
1. 過去問演習 基本			25		
2. 模擬試験			4		
3. 過去問演習 応用			25		
4. 本試験(11月)			6		
<b>その他</b>				<b>関連科目</b>	
2級建築施行管理技士試験(後期)受験する。				建築施工I・II	

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K36
授業科目名			授業形態		学科・コース
建築色彩			講義		建築科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択C 選択者必修	60	4	落合 里美
授業の目的・到達目標					
色の基本として、表現方法から色彩調和論、色もたらす心理的效果などを学んだ上で、建築空間における色彩計画を実践する。また、色彩検定3級の基礎知識を習得し、試験問題が解けるようになる。					
授業の概要					
「心地よい空間」を認識するための情報源の80%以上が視覚から取り込まれ、その情報のすべてが「色」によって発せられる。このように建築デザインにおいて色彩は欠くことのできない要素であり、その理論と配色方法を学ぶことが快適な住環境を計画するための第一歩である。					
成績評価の方法					
課題評価、授業態度等を勘案して総合的に評価する。					課題 80% 学習意欲 20%
使用テキスト・教材					
色彩検定公式テキスト3級 「新配色カード199a」(日本色研事業株式会社)					
授業内容・授業計画					
1. 色彩の基礎 (色彩検定3級に対応) 色のしくみ (色の三属性、トーン)、色名、色の感情効果、色の見え (色の対比、同化、面積効果他)、配色技法、混色理論、光と色、目のしくみ、色彩構成、ファッション・インテリアの色彩		時間数 20	4. 照明計画 光源の種類、色温度、照明の効果、光のプレゼンテーション		時間数 10
2. インテリアエレメント ウィンドウトリートメントの種類、家具の歴史、照明器具のスタイル		10	5. インテリアのイメージ クラシック、ナチュラル、カジュアル、モダンなど代表的なイメージの特徴		10
3. 家具のレイアウト 人間工学、家具の寸法と生活に必要な寸法		10			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2022年度
				科目コード	D-K37
授業科目名		授業形態		学科・コース	
インテリア計画		講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択C 選択者必修	120	8	大畑 理江
授業の目的・到達目標					
インテリアに係わる幅広い内容を習得し、実際の職務において目的に応じた計画立案ができるようにする。					
授業の概要					
住宅だけでなく店舗や飲食店、公共施設などの大規模建築についてのインテリア計画論について学習する。この授業の最終目標はインテリアコーディネーター資格取得であり、その対策にも重点を置く。					
成績評価の方法					
資格取得状況、本試験及び課題評価、授業態度等を勘案して総合的に評価する。				期末試験	80%
				課題	10%
				学習意欲	10%
使用テキスト・教材					
「110のキーワードで学ぶ 世界で一番やさしいインテリア」(エクスナレッジ)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. インテリアの基礎知識			5. 設備		
001~005	インテリア歴史 (日本・西洋)	8	059~067	採光・照明・電気・換気・音	12
006~009	人体寸法・作業域・行動心理	4	068~074	キッチン・バス・トイレ	4
010~020	色・造形	4	6. 計画		
2. 建築構造と部位のつくり			075~080	玄関・LDK・サニタリー	4
021~023	床・壁・天井	8	081~089	寝室・子供室・和室・高齢者	4
024~027	造作・開口部・階段	8	090~094	店舗 (物販店・飲食店等)	8
3. インテリア素材と仕上げ			095~097	リフォーム (戸建・マンション)	4
028~032	木質材・石材・タイル	8	7. インテリアデザインの仕事をするため		
033~037	ガラス・樹脂・紙・畳	8	098~103	インテリア計画の進め方・安全計画	4
038~043	布・皮革・塗料	8	104~106	関連法規	4
4. 家具と建具			107~110	表現技法 (パース・CAD・CG・プレゼン)	4
044~052	家具	8			
053~058	建具	8			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)				年度		
時間数は45分換算				2022年度		
				科目コード		
				D-K38		
授業科目名			授業形態		学科・コース	
住環境計画			講義		建築科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	選択C 選択者必修	90	6	中居 康晴	
授業の目的・到達目標						
住環境について、幼児や高齢者だけでなくすべての人に優しい空間作りについて理解する。 また、福祉住環境コーディネーター資格の試験問題が解けるようになる。						
授業の概要						
建築物において子供や高齢者、身障者は何かしらの不便を感じていることが多い。そこでこれらの問題を意識し、改善していこうという運動であるユニバーサルデザインについて学習する。						
成績評価の方法						
資格取得及び課題評価、授業態度等を勘案して総合的に評価する。					本試験 80%	
					課題 10%	
					学習意欲 10%	
使用テキスト・教材						
福祉住環境コーディネーター検定試験 2級 公式テキスト (東京商工会議所)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義			15	5. 福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識		15
2. 障害のとらえ方と自立支援のあり方			15	6. 在宅生活における福祉用具の活用事例集		15
3. 疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方			15			
4. 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方			15			
その他			関連科目			